

あのときはどうも

いぜん　せ　わ　が　いこくじんりゆうがくせい　ひさ　さいかい
以前お世話をした外国人留学生に、久しぶりに再会することがあるが、

ほとんどの場合、彼らは世話になった礼を言わない。礼を言われることを
きたい　にほんじん　なに
期待するほうがおかしいのかもしれないが、なんだかさびしい。日本人は何か

せ　わ　ちょくご　れい　の　ご　あ　せんじつ
世話になった直後にお礼のことばを述べ、その後も会うたびに、「先日はあ

りがとうございました」「あのときはどうも」「いつぞやはお世話になりました
せ　わ

た」などと繰り返して言う。これが普通だと思っている日本人の習慣から
く　かえ　い　ふつう　おも　に　ほんじん　しゅうかん

すると、そのとき一回かぎりのお礼だけではもの足りなさを感じるのも無理
いつかい　れい　た　かん　むり
はない。

いっばんでき　にほん　いがい　おお　くに　れい　いっかい　す
一般的に、日本以外の多くの国では、お礼のことは一回きりで済ます

ばあい　おお　かんじん　かれ　けつ　おん　わす
場合が多いようだ。ただ、ここで肝心なことは、彼らは決して恩を忘れて

ねが
いるわけではないということである。それは、ひとたびこちらからお願いご

きょうしゅく　せい　いっばい　つ
とをすると、恐縮してしまうほど精一杯尽くしてくれることでもわかる。

にほん　ぎ　り　しゃかい　い　にほん　でんとうぶんか　ぎ　り　にん
日本は義理社会だと言われる。日本の伝統文化をはぐくんできた義理人

じょう　たいせつ　おも　かたち
情は大切にしなければならないと思う。しかし、それが形だけのものにな

おも
ってはないと思う。

おく もの おも さき かえ かんが
贈り物も、もらってありがたく思うより先にお返しのことを考える。こ

ころから感謝かんしゃの気持ちきもを伝えるつたはずのお礼れいのことばも、言いい忘れては失礼しつれい
になるという気持ちきものほうつよが強くはたらき、二度も三度も繰り返す。これら
は、お礼れいをしたり、お礼れいを言いったりすることが形かたちだけのものになってしま
った悪い例だ。わる れい

贈り物おく ものをもらったとき、「ありがとう」の一回いっかいきりのことばだけで済すます
わけにはいかないだろうが、まるで物々交換ぶつぶつこうかんのようなお礼れいのやりとりだけは
したくないものだ。

関正昭 南日本新聞 1993 年 11 月 16 日夕刊より